

## 獣医外科学の教科書

平成 23 年 1 月 2 月 3 日

外科専門医協会会員各位：

今回の理事会に出席できずに申し訳ありません。

先生方も既に承知されているように、獣医学教育にモデル・コア・カリキュラムが導入されることが決定し、それにあわせて各科目ごとに、コアカリキュラム準拠の教科書を作成することが、全国大学獣医学関係代表者協議会（全国協議会）から指示されております。

今回、外科系のコアカリ準拠教科書に関し、全国協議会から中心になって活動するように要請されたため（内科学関連は、岩手大学、佐藤れえ子先生）、ここで先生方のご意見を伺いたいと思います。

コアカリキュラムにおいては、従来の内科、外科、といった大まかな分類ではなく、臓器別の細かい科目編成となりました（臨床系講義科目 23 科目）。カリキュラムの変更、ならびにそれを基にした共用試験の開始を考えると、平成 25～26 年ころを目処に教科書を作成しなければなりません。

一方、外科学の教科書に関しては、故 竹内啓教授が主体となって、朝倉書店の協力を得て、教科書作りがスタートしておりましたが、先生が亡くなってから、全く動いていない、という現状です。その企画は、海外の教科書のような大冊ではないものの、外科学に関する大動物を含めた教科書として十分に使える、という目的を持ったものです。既にそこに原稿を入れていただいた先生も多くおられます。

既に、西村先生とともに朝倉書店とは話し合いを行いました。その中で、コアカリ準拠の教科書は、各科目に分かれており、少ない分量の教科書（ある意味では、やや細かいシラバス）になってしまう恐れが強いこと、しかも、その内容も含む教科書が作成された場合、おそらく需要は外科の教科書の方が高いと思われること、などが議論されました。結果としては、コアカリ部分をきちんと表示はするが、基本的には外科学教科書の作成に進むべきであろう、との結論になり、かつ朝倉書店も協力していただけることとなりました。

既に、全国協議会からコアカリ準拠の教科書作成を依頼されている先生方に相談し、できれば、共同して教科書作りに参画いただくようお願いしたところです（外科学総論、手術学総論、麻酔学、軟部外科学、運動器病学）。ただし、大動物関係（大動物臨床学、馬臨床学：これらは外科、内科の両分野を含んでいます）、眼科学、獣医腫瘍学等の担当の先生にはまだ声をかけておりませんので、どのように進んでいるかは明確ではありません。

以上の背景をもとに、いくつかの議論とご了解をお願いしたいと思います。

- 1：上記のような方針で、教科書を優先して作成することで良いか（コアカリ準拠でない、通常の教科書）
- 2：この獣医外科専門医協会の先生ならびに各科目の担当者（コアカリ作成者）等に編集委員に入っていたき、まず企画を詰める
- 3：編集委員会を開催し、もともと原稿を書いていた先生に対する対応、執筆者の決定などを早急に行う
- 4：監修料に関しては、協会会員が監修者の場合、その一部を外科専門医協会に寄附する

以上、ご検討いただければ幸いです。

東大、獣医外科 佐々木伸雄